

## 一般演題2 O2-2 水タバコ喫煙後に発症した一酸化炭素中毒 の一例

三宅喬人 土井智章 鈴木浩大 上谷 遼  
水野洋佑 岡田英志 小倉真治

岐阜大学医学部附属病院 高度救命救急センター

### 【はじめに】

水タバコは火皿で燃えたたばこの煙を水にくぐらせ、濾過された煙を喫煙するものである。WHOの報告によれば、1600年前後のインド発祥とされている。全世界的にコーヒーショップやチャイハネといった場所に嗜まれている。一般的な紙タバコと異なり、煙の量が少なく、健康被害が少ないという情報が流布されていることもあり、最近本邦でも愛好家と専門店が増えている。今回我々は水タバコによる一酸化炭素中毒(CO中毒)の症例を経験したため報告する。

### 【症例】

24歳男性

普段から水タバコを提供する店舗で勤務している。発症同日、水タバコ喫煙中にアルコール摂取したところ、倦怠感を自覚して救急要請し近隣救命救急センター搬送。一酸化炭素中毒の診断(CO-Hb24.5%)の元、高気圧酸素治療目的に当院に転送となった。来院時意識は清明で、SpO<sub>2</sub> 100%(リザーバーマスク 10L)、呼吸回数 12回/分、血圧 180/88 mmHg、脈拍数 84 拍/分、体温 37.4 度であった。自覚症状は倦怠感のみであり、診察上他覚的異常所見を認めなかった。当院来院時すでにCO-Hbは6.4%と改善傾向にあったが、高気圧酸素治療の適応として発症9時間後、14時間後の計2回、高気圧酸素治療を行った(酸素加圧 2ATA 60分)。全身状態良好で意識も清明であり、第2病日に退院とした。

### 【考察】

当院はCO中毒に対する高気圧酸素治療を積極的に行っており、近隣病院から症例を受け入れている。今回も経過から長時間、高濃度のCOに曝露した可能性が高いと考えて高気圧酸素治療を行い経過は良好であった。

公的な発表ではないものの、最近水タバコを提供す

る“シーシャバー”は全国的に急速に増えているとされる。インターネットをはじめ、一般的に流布されている宣伝文句の中で、水タバコの喫煙に伴う有害事象の指摘はあるものの、“水を通して喫煙するため有害物質が少ない”といった科学的根拠に乏しい文言も散見される。

2015年WHOのAdvisory noteを参照すると、十分な科学的データに乏しいと注釈があるものの、水タバコは一酸化炭素中毒やニコチンといった紙タバコに含まれる毒性成分を喫煙する状況に大きく変わりがないと指摘されている。また水タバコは紙タバコと比して長時間煙に曝露され(1セッション 1時間程度)、その一般的なイメージに比して有害事象の発生頻度が高いことが危惧される。今後同様の症例が増加する可能性が高く、医療者の間で水タバコによるCO中毒発症のリスクがあまり認知されていないこともあり、日常診療においても注意が必要である。

### 【結語】

水タバコは紙タバコより安全性が高いという根拠の乏しい情報から危険性が軽視されている可能性がある。今回の症例を通じて、社会的な注意喚起も含め、啓発を行っていく必要がある。